

武尊通信

ほたかつうしん
第179号

群馬歴史民俗研究会

〒372-0033
群馬県伊勢崎市
南千木町 5226-12
gunrekimin@gmail.com

(振替00340-1-14572)

2024.9.1 発行

天正初頭における由良成繁の居所に関する一試論

藤田 慧

由良成繁は、戦国時代に新田金山城を拠点とした武将として知られているが、天正初頭の成繁の居所については、次のような説明がされてきた。すなわち、『桐生市史 上巻』（桐生市史刊行委員会、一九五八年）によると、天正元（一五七三）年に由良氏が桐生を勢力下においた後、「翌天正二年四月新田の本城を嫡子国繁に譲り、五月一日桐生に入城し」たという。後の研究にも、この成繁の桐生入部を天正二（一五七四）年とする説を踏襲しているものがある（山崎一『群馬県古城墨址の研究 上巻』（群馬県文化事業振興会一九七一年）、『群馬県の中世城館跡』（群馬県教育委員会、一九八九年）、飯森康広「桐生城周辺を歩く」（桐生文化史談会編『桐生佐野氏と戦国社会』、岩田書院、二〇〇七年）など）。『桐生市史』の記述の根拠は示されて

いないが、軍記物「桐生老談記」（桐生市立図書館編集・発行、一九九四年を参照）には同内容の記述があるため、後世に作成された二次史料に基づき記述と考えられる。成繁の居所が、二次史料に基づき説明されている点が課題といえよう。そこで本稿では、同時代史料である一次史料を用いて、天正初頭の成繁の居所の推定を試みたい。

さて、本稿で注目したいのが、次の芳春院周興副状である（『金山城と由良氏』（太田市教育委員会、一九九六年、以下『金山』と略記）二六八号）。

急度預貴札候、能々披閱、祝着令存候、然者五覽田^{（桐生氏）}之地有御再興、藤生紀伊守方被閣候、從沼田被谷へ動候処、二三ヶ所之寄居衆被卜合、敵三百余人被討取候、

注文御進上候、誠以心地好、肝要至極存候、即今日十四致披露候、御心地好、肝要至極思召由被仰出、被成 御書候、上総御陣之砌、一段奇特之御仕合候、定而^{（北条氏）}太守可為御満足由存候、①上総陣之様^{（松浦氏）}体、折節村上助三郎方言上被申候、某へ

《第二七回例会のお知らせ》

対面及びオンライン（Zoom）で開催
します。

日時 二〇二四年九月二十九日（日）

午後二時～五時

会場 前橋市中央公民館五〇六学習室

（前橋プラザ元気21 五階）

報告 井坂 優斗氏

「文学作品からみる太田市利根川流域の地域像」

渡邊 直登氏

「八ッ場ダム建設に伴う墓の移転における集団移転および補償金の影響と石屋・神職の役割」

申込 会場・オンラインいずれの場合も参加申込が必要です。参加希望者は、申込フォーム（左記URL、二次元コード、

RL、二次元コード、本会HP）に接続し

申し込みを行うか、TELまたはFAX

TELまたはFAX
へご連絡ください。



URL : <https://forms.gle/WgoyJNkVf4hQsQst8>

TEL/FAX : 0270 (32) 9070

之書中為御披見、令進献候、^{（上総国）}土氣・^{（上総国）}東金・

本納被押詰、郷村無残所候、^{（上総国）}兵糧一万俵

万喜へ御合力候、味方中之覚^{（北条氏）}肝要可被思

召候、某事去月廿七小田原へ為御使節

罷越、先月末罷歸候、然間八朔被御申上

候処、不走廻候、^{（松浦氏）}雖然寿首座馳走申候、